

## こどもの病気 「みずぼうそう（水痘）」

みずぼうそうは、ほとんどの人が幼児期から学童期にかけてかかる感染症です。一度かかると免疫ができるため、再び、みずぼうそうになることはありませんが、何年後かに、そのウイルスによって带状疱疹（たいじょうほうしん）になることがあります。

- 原因：水痘带状疱疹ウイルスの感染です。潜伏期間は2～3週間です。
- 症状：赤い虫さされのような発疹ができ、その先端は水を持つようになります。4～5日増え続け、体中に広がります。水疱になるとかゆみができます。（かきつぶして、とびひにしてしまう場合もあります。）その後、2～3日で黒いかさぶたになっていきます。全部がかさぶたになるまで1～2週間かかります。熱が出ることもありますが、2～3日でさがります。
- 治療：抗ウイルスの飲み薬とカチリ（フェノール亜鉛華リニメント）という塗り薬を使います。そのほか症状にあわせた薬（かゆみ止めや解熱剤など）を使うことがあります。抗ウイルス剤は発症後、早い時期に開始すると、症状が軽くすみます。

（治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものを記載しています。）

- いつから学校（保育所）にいったいいい？：発疹がすべて、かさぶたになって、乾いたらOKです。
- おうちでできること：

休む・・・家でゆっくりしていきましょう。

ごはん・・・口の中にも発疹ができるので、痛がって食べにくいとおもいます。口当たりのよいものにしてあげましょう。

お風呂・・・少し落ち着いたたら、ぬるめのお湯でさっと汗を流すほうが、きもちよいでしょう。

清潔・・・ひっかいてかきこわさないように、つめは短く切りましょう。

- 予防：1歳になると予防接種を受けることができます。流行っていない時期にうけましょう。みずぼうそうは、比較的症状の軽い病気と考えられていますが、まれに、髄膜炎などの合併症をおこすことがあります。また、アトピー体質のお子さんは、皮膚の抵抗力が弱いいため、症状が強く出る場合があります。はやめに、受診することをお勧めします。

### 今回のおはなし「おくすりがのこったら・・・」

処方された薬は、原則として最後まで、きちんと飲ませてあげてください。症状がとれたからとか、副作用が心配だからといって、途中で止めてしまうのは、よくありません。せっかく治りかけていたのに、またぶり返してしまうことがあります。

残ってしまった薬は、原則として処分してください。処方された薬は、そのときの症状に合わせて出されていますので、次に備えて、残しておくことはやめましょう。また、お子さんの場合、体も大きくなってきますので、以前の薬では、量が合わなくなっている場合もあります。でも、熱さましの頓服などは、常備しておきたいものですね。いつぐらいまで、置いておけるのか、お薬をもらうときに聞いておきましょう。保存は、直射日光のあたらない乾燥したところがよいでしょう。

頓服や、一度もあけていないぬり薬などが残っていたら、診察のときに、お医者さんに伝えてください。「おくすり手帳」を見ればわかります。お医者さんが、おうちにあるお薬でよいと、判断すれば、処方はおされません。もう一度、使い方を確認しておいてくださいね。